

LMcorsa

60● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

SUPER GT 2019 Race Report Okayama Official Test

3月16日 - 17日 | 天候:雨/晴 | コース:岡山国際サーキット | 路面:ウェット/ドライ

TEST Days Summary

シーズンインが目前に迫る中で1回目のSUPER GT公式テストが岡山国際サーキットで開催。2日ともにあいにくの空模様と低い気温の中だったがSYNTIUM LMcorsa RC F GT3はウェット時の性能向上を確認。開幕戦に向けて、ドライコンディションでの戦闘力を上げていく。

TEST Days

LMcorsaの2018年シーズンは開幕戦こそポイントを落としてしまったが、第2戦から第4戦まで連続でトップ10内に入り、第4戦ではRC F GT3にマシンをスイッチしてから初の表彰台に登る活躍をみせた。だがシーズン後半は勢いに乗ることができず、最終的にポイントランキング15位という悔しい結果となった。



2019年のチーム体制は昨シーズンと同様で、

第1ドライバーに吉本大樹選手、第2ドライバーに宮田莉朋選手、そして飯田章氏がチーム監督として帯同することになっている。使用するマシンはSYNTIUM LMcorsa RC F GT3で、2017年に大幅なアップデートを実施してから3シーズン目となり熟成も進み、かねてからの武器である信頼性や高速コーナーのパフォーマンスを活かして戦うことになる。昨シーズンと異なるのが装着するタイヤで、これまでのヨコハマタイヤからダンロップに変更。さらなるパフォーマンスアップに繋がれるか、タイヤとのマッチングが今シーズンの活躍のキーになる。

このように装着タイヤを変更したこともあり、LMcorsaはオフシーズンに国内の主要サーキットで行なわれてきたメーカーテストに積極的に参加した。大きなトラブルもなく順調にメーカーテストをこなしてきたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、一部のサーキットではクラストップタイムを記録するなど好調さを示している。

TEST Days

そして、シーズン開幕戦を占う SUPER GT の第 1 回公式テストが岡山国際サーキットで実施された。スケジュールは、3 月 16 日（土）、17 日（日）の両日で、土日ともに 2 時間の走行枠が 2 本で、合計 8 時間の走行テストとなった。

16 日は 9 時 50 分から 1 本目の走行がスタートするはずだったが、前日に岡山国際サーキット



では降雪があり路面コンディションがウエットとなっていました。そこで、走行開始が 10 時 20 分となり、終了も予定されていた 11 時 50 分から 12 時 20 分へ変更。まず、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 に乗り込んだ吉本選手はコースオープンとともに走行テストを開始する。まだコースはウエットだったのでレインタイヤを履いて走行を重ねる。5 周目にはピットに戻り、宮田選手にバ

トンタッチ。途中でコースオフしたマシンが発生したために赤旗が提示されて中断するが、中断を挟んで宮田選手は 11 周を走行し上位のタイムを刻んだ。その後、再び吉本選手が乗り込み、12 時 20 分の終了まで予定されたテストプログラムを消化し、2 人合わせて合計で 31 周を走行した。

1 本目のセッション終了間際にはレコードラインが乾いたのだが、14 時 30 分から予定していた 2 本目のセッションとの間に雨が降ってしまい、路面は再びウエットコンディションになる。そのため最初の 30 分はピットで待機し、コースがやや乾きだした 15 時にコースイン。吉本選手は約 5 周ごとにピットインしてセットアップの変更やタイヤのテストなどを実施し 30 周を走行。2 時間のセッションの残り 30 分となったところで宮田選手が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 に乗り込む。チェッカーフラッグが振られる前周にはこの日のベストタイムとなる 1 分 27 秒 343 をマークして 1 日目の公式テストを締めくくる。結果は、29 台の GT300 クラスの中で 19 番手だった。



テスト 2 日目の 17 日も早朝から岡山国際サーキットは雨雲で覆われ、ウエット宣言の元で 9 時から 11 時まで 3 本目となる走行テストが行なわれた。

ウエットコンディションとなったがコースオープンとともに吉本選手は走行を開始。

TEST Days

前日と同じく5周ほど走行してピットイン、アウトを繰り返しながらセットアップを進める。ウエットコンディションではやはり好調さを示し、走行開始から約1時間はタイム計時モニターの最上位にSYNTIUM LMcorsa RC F GT3が表示された。セッション終了が近づくとつれて路面は乾いていくなかで、吉本選手は合計で38周を走行。ベストタイムは1分35秒563でGT300クラスの28台中15番手の結果となった。

第1回公式テストの最終セッションとなった4本目の走行テストは、予定通りの13時45分にスタート。最初の約15分間は、GT500とGT300クラスの43台がそろってのスタート練習が行なわれた。岡山国際サーキットは昼前から日差しが照り付けたが、スタート練習の直後にみぞれを伴う雨が降り付ける。そのため、14時7分に赤旗が提示されてセッションは一時中断となった。雨は幸いにもすぐに止んだが路面がまたしてもウエットとなったため、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は再開後もピットに留まった。約30分が経過し、ようやくレコードラインが乾き始めると吉本選手がコースイン。コース状況を確認しながらスリックタイヤでテストを再開する。セッション2,3と同様に5周ほど走行するとピットに入りタイヤやセットアップを変更。このセッションは40周を走行して、1分27秒308がベストタイムとなりGT300クラスの29台中20番手となった。

天候に恵まれなかったSUPER GT公式テストの1回目だったが、それでもSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は2日間で140周以上を走行した。ウエットコンディションでの好調さの一方でドライではライバル勢に対して遅れをとっているようで、早急な原因究明が必要となる。4月13日、14日に同じく岡山国際サーキットで開催される開幕戦までの間に、SUPER GT公式テストの2回目が富士スピードウェイで実施される。残された走行機会はすくないが、開幕戦までに万全の体制を整え、今シーズンこそシリーズチャンピオンに食い込んでいきたい。



Team Comment



Director :飯田 章

想像以上の難しいコンディションとなりましたが、ドライ、ウエットともにテストすることができました。ドライのタイヤは気温が低かったために、手こずっていたようです。これまでのメーカーテストを含めて距離は走れているので、今回のテストと比較して目標に向けてクルマやタイヤを作っていくたいです。ただ、ウエットコンディションでの感触はどちらのドライバーからも良好なコメントが挙がってきているので、安心できる部分ではあります。次回の富士スピードウェイでのテストに向けて、課題を洗い出したいと思います。



Driver :吉本 大樹

結果から見るとドライコンディションでは、まだダンロップタイヤの特性を引き出せていないようです。次回の富士スピードウェイでの公式テストも含めて、チャレンジを続ける必要があります。一方のウエットでは、ポテンシャルの高さを実感できています。2日目の朝一がもっとも濡れていたのですが、ライバル勢に対してアドバンテージはありそうです。ダンロップのエンジニアとはメーカーテストから色々話し合いを重ねているところなので、早く SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 の長所を引き出せるものを完成させたいです。



Driver :宮田 莉朋

午前中のセッション前半はウエットだったのですが、このときのマシンの感触とタイムは良かったと思います。これまでは雨を苦手としていましたが、今シーズンは戦えそうな気配を感じています。一方でドライコンディションは厳しい状況となりました。事前のメーカーテストで岡山国際サーキットを走ったのですが、そのときとフィーリングが異なっているので、どこが問題なのかを検証する必要があります。



Next.... 3.30-31 Fuji official Test